

# 組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名：工学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p> <p><b>①-1 目標</b></p> <p>「学生課程教育及び大学院課程教育の改革」として、以下を実施する。                      (1)工学教育外部評価委員会の継続開催と指摘事項の改善検討を行う                      (2)岡山県工学教育協議会に参加し、工学教育に関する検討を行う                      「グローバル人材育成の推進」として、以下を実施する。                      (3)工学部共通コア科目の教育環境を整備し、内容についても改善を検討する                      (4)経済学部との協力による合同科目として、昨年度の科目を継続開講し、新たな科目も開講する                      (5)医学部との協力による合同科目の開講を検討する                      「戦略的な情報発信と情報資源の活用」および「優秀な学生及びグローバルに活躍する学生の確保」として、以下を継続実施する。                      (6)教育年報の発刊                      (7)中国四国地区国立大学工学系学部合同説明会                      (8)女の子のための理工系進学情報誌「Happy Technology」への参画                      (9)オープンキャンパスで、女子生徒を対象としたプログラムの実施                      (10)夢ナビプログラムへの参画                      (11)工学フォーラム2013への参加                      (12)新聞(読売、朝日、日経)を利用した情報発信                      (13)高大連携事業での学生の派遣                      (14)岡山県内高等学校理数科系教員との懇談会                      (15)高等学校進路指導担当教諭との懇談会                      (16)岡山県内工業高校校長との懇談会                      また、表彰(教育員貢献賞とベストティーチャー賞)は、継続実施する。</p> <p><b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>(1)志願倍率(学部入試倍率:前期日程)の目標を2.4倍とする。                      (平成25年度は2.2倍(平成24年度は2.6倍)であったため、10%増加させたい)</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>目標で掲げた左記の内容をすべて実施した。なお、項目(5)については、医工連携による新しい研究科の設置に向けた検討の中で行うこととする。</p> <p>さらに、目標として記載した項目以外に新たに以下を行った。                      (A)教育見直しWGを立ち上げ、教養教育および専門教育の改革について検討を開始した。また、検討内容の一部を全学の教養教育改革に向けて提言した。                      (B)女子学生を対象とした推薦入試制度について検討を開始した。</p> <p>目標とする客観的指標については、志願倍率(学部入試倍率:前期日程)は2.3倍であり、昨年度2.2倍を上回ったものの、目標2.4倍を達成できなかった。4学科のうち3学科については昨年度より倍率を上げることができたが、1学科については倍率が低下した。この原因分析を2月初旬より初め、分析結果を来年度の活動に反映させたい。                      なお、後期日程については、前期日程の倍率上昇を受け、昨年度(6.5倍)を下回る5.3倍になった。</p>
<p><b>②研究領域</b></p> <p><b>②-1 目標</b></p> <p>「外部研究資金等の獲得の推進」として、以下を継続実施する。                      (1)産学連携推進委員会の開催                      (2)研究成果(論文など)の公表(工学部研究年報)                      (3)教授会での外部資金獲得状況の報告(毎月)                      (4)科研申請状況の把握と申請の依頼                      (5)科研申請の支援(研究科と協力して実施)                      なお、表彰(研究功績賞)は、継続実施する。</p> <p><b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>(1)科研申請率100%(教員全員が新規申請と継続のいずれかに該当する。ただし、特別な理由がある教員を除く)を目指す。(平成24年度は99%であったため、その反省を生かし100%を目指す)                      (2)科研採択率30%以上を目指す。(24%)                      (3)外部資金獲得(共同研究、受託研究、奨学寄附金)の前年比5%増加を目指す。(平成24年度は5%増を達成できたので、更なる5%増加を目指す)</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>目標で掲げた左記の内容のうち、項目(1)を除き他項目はすべて実施した。なお、OICT(岡山情報通信技術研究会)の活動は順調であり、知恵の見本市等への参加も活発化(資金の補助を実施)しているため、産学連携推進委員会を開催しなかった。</p> <p>目標とする客観的指標については、以下の状況であった。                      (1)科研申請率は100%であり、目標を達成できた。今後も、研究科と連携して、向上に努めたい。                      (2)科研採択率は24%であり、目標(30%以上)を達成できなかった。研究科と連携して、向上に努めたい。                      (3)外部資金獲得は、昨年度に比べ、以下の状況(2月末現在)にある。                      ・共同研究(件数95%、金額104%)                      ・受託研究(件数105%、金額125%)                      ・奨学寄附金(件数71%、金額57%)                      合計として、件数は89%と減少したものの、金額は104%と増加できたが、目標をやや達成できなかった。</p>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p> <p><b>③-1 目標</b></p> <p>「海外の大学とのコンソーシアム型交流事業の推進」として以下を実施する。                      (1)ミャンマーとの連携について、関連大学とともに検討する                      また、以下を継続実施する。                      (2)地域の小中学生向けの工学実験教室                      (3)産官学が連携した研究会の事業(OICTなど)                      (4)国立大学53工学系学部長会議下の大学連携推進委員会(委員長として)に協力                      なお、表彰(社会員貢献賞)は、継続実施する。</p> <p><b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>特になし。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>左記の項目をすべて実施した。                      また、大学連携推進委員会委員長として、工学フォーラム2013を主催し、好評を得た。</p>
<p><b>④管理運営領域</b></p> <p><b>④-1 目標</b></p> <p>「教育研究組織の再編」として、以下を実施する。                      (1)学部大学院融合会議の新設                      「効果的な予算配分と経費節減」として、以下を継続実施する。                      (2)会議関連の効率化(資料のPDF化と事前配布、最長2時間、17時以降は原則禁止)                      また、教員間のコミュニケーション円滑化と情報共有化を図るため、以下を継続実施する。                      (3)教員会議(全教員対象、年4回)を実施する                      (4)准教授会を開催し、今後の工学部について議論する                      (5)「工学部長室だより」を電子メール配信(毎月)する                      さらに、教員研修会の実施を検討する。</p> <p><b>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>特になし。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>左記の項目をすべて実施した。なお、教員研修会の実施については、継続検討する。</p> <p>さらに、目標として記載した項目以外に新たに以下を行った。                      (A)工学分野のミッション再定義に関し、資料を作成し、文部科学省との意見交換会(6月4日)において、説明した。これにより、文部科学省のまとめ資料において本学工学部は「工学の一定の分野に世界水準の強みを有する(異分野融合(医農)/生物機能)」と記載された。                      (B)防災訓練では、木曜日午前中であることを生かし、講義中の教員や学生も含め多数の学生と教職員の参加を依頼し、参加者約1000名を実現できた。                      (C)研究年報と教員評価システムのデータ共有を可能にするシステムを開発した。</p>
<p><b>【総括記述欄】</b></p> <p>各目標は、以下の状況である。                      (1)志願倍率(前期日程)は、目標(2.4倍)を0.1下回るもの(2.3倍)になってしまった。昨年度の倍率(2.2倍)より向上できたが、目標を達成できなかった。4学科の中の1学科において、2年連続で倍率が低下しているため、その原因分析を行い、来年度の活動に反映したい。                      (2)科研の申請率は目標を達成できたものの、採択率は目標を達成できなかった。研究科と協力し、改善してゆきたい。                      (3)外部資金獲得については、目標をやや達成できなかった。今後も継続して強化してゆきたい。                      目標として記載した項目以外に、教育見直しWG立ち上げ、女子学生推薦入試制度検討、ミッション再定義、防火訓練、および研究年報の改善がある。各項目について、上記に記したように積極的に検討、あるいは実施した。前2者については、今後も継続検討する。ミッション再定義の内容は、今後の工学部改革に生かす。また、防火訓練の内容は、今後の訓練に生かしたい。</p>	